

第4回 利賀ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場 議事要旨

平成28年6月5日（日）15:00～16:25
庄川生涯学習センター1階多目的ホール

【出席者】

富山県知事、高岡市長、射水市長、砺波市副市長、小矢部市副市長
南砺市長

【主な意見】

- 利賀ダム案とその代替案について、目的ごとに様々に評価をされ、さらに総合的な評価で詳細に評価を実施し、緻密な分析をやっていただき感謝している。
- 庄川流域は想定氾濫区域に高岡市や砺波市など約26万人の方が居住しており、4兆3700億円の資産があるなど治水対策上富山県にとって重要な地域である。
- 沿川自治体や住民から利賀ダムは早く完成してほしいと強く要望されてきた。
- 河川整備計画レベルの安全度は30年～40年に一度発生する規模で検討されているものだが、利賀ダムは庄川水系河川整備基本方針で定められた150年に一度発生する規模の洪水に対応できる治水安全度を確保するために計画されたものであり、そのような観点からも、このような様々な緻密な分析検証をされ、利賀ダム案が最も有利という検証結果を示していただいたことは大変ありがたい。
- 利賀ダム建設事業の点検で、今後総事業費が約126億円増額という結果が示されたが、その要因については、消費税や物価変動等

の増によるものであり、やむを得ないものと考えている。今後とも事業執行の効率化、コスト縮減に努力いただき、総事業費の抑制に努めていただきたい。あわせて、できるだけ早期の完成をお願いしたい。

○近年、昨年9月の鬼怒川の決壊などをはじめとして、全国で水害が多発している。また庄川においても昭和51年の台風17号と平成16年10月の台風23号による出水など度重なる洪水が発生しており、いつ同様な水害に見舞われるかもしれない。

○最近の異常気象の全国的な発生を見ると、安全に万全かつ早期に整備していくことが必要である。

○色々と検証のデータを持って取り組んでいただき、総合的な判断として利賀ダム案有利をお示しいただいたことは、ほっとした気持ちである。

○上流部のダム所在市長なので、知事が言われた下流住民の皆さんの思いや今までの災害の危険な状況を知っている方がいるため、河川整備計画の目標を上回る洪水等の発生に対する安全度というものを我々も受け止めて、より安全にコストをかけることなく安全を第一にしていきたいと強く思っており、今回の評価を頂いたということは大変感謝をしている。

○この案に賛成なので、これから事務的にスピード感をもって取り組んでいただきたい。

○下流域では、庄川という暴れ川と言われている川の管理というものが非常に課題であり関心事である。色々な観点からご考慮頂き、安全度を重要視しながら時間軸も合わせご検討頂き、結果として現在進められている利賀ダムが総合的な観点から有利だと結論いただいたことはありがたいと思っている。

○今後とも気象状況等々不透明なところがあり、国の方も色々な観点から、さらなる安全な治水対策や住民への情報提供がなされていくと思う。是非安全な管理の観点から、今後のご推進をお願い

したい。

- 庄川では、度々大きな水害が発生してきている。
- 射水市は、昭和 9 年の大水害で大きな被害を受けた地域である。
その後も度々昭和 50 年代、また平成 16 年には避難勧告が出される等、怖い夜を過ごすなどの経験もしながら、やはり早く安全を確保してほしいという思いを地域として強く持っている所である。
- 庄川は急流河川であり、検証作業も難しい面も多々あったとのことですが、今日ご説明いただいた様々な検証をしっかりと行って、利賀ダム案が良い案だということでしたので、是非これを進め、安全の確保を推進していただくよう、お願いしたい。

- 小矢部市は庄川の中流域にあるが、平成 20 年の集中豪雨を考えると、いつ大規模な洪水が発生するかわからない。
- 今回丁寧に検証された検証結果を基に、洪水調節が最も早期に効果が現れる利賀ダムの建設を小矢部市としても是非お願いしたい。

- 砺波市は下流域にあり、平成 26 年 7 月 20 日に時間 120 ミリの豪雨があった。現在砺波市では、国土交通省のデータを頂きながらタイムラインを作成しているが、それでは全てが十分ではないため、今回提案を頂いた利賀ダム案において、市民の安全安心を守るためにも早期完成をお願いしたい。

以 上